

第1415回 京都市教育委員会会議 会議録

1 日 時 令和元年8月8日 木曜日
開会 10時00分 閉会 11時40分

2 場 所 教育委員室

3 出席者 教 育 長 在田 正秀
委 員 奥野 史子
委 員 星川 茂一
委 員 笹岡 隆甫
委 員 野口 範子

4 欠席者 委 員 高乗 秀明

5 傍聴者 12人

6 議事の概要

(1) 開会

10時00分、教育長が開会を宣告。

(2) 前会会議録の承認

第1414回京都市教育委員会会議の会議録について、教育長及び全委員の承認が得られた。

(3) 議事の概要

ア 議事

議案1件、報告2件

イ 非公開の承認

報告1件については、訴訟及び不服申立てに関する事項及び個人の権利利益を害するおそれがある事項に関する案件であるため、京都市教育委員会会議規則に基づき、非公開とすることについて、全委員の承認が得られた。

ウ 議決事項

議第12号 令和2年度から令和5年度まで京都市立小学校及び義務教育学校（前期課程）において使用する教科書の採択について

（事務局説明 関 学校指導課担当課長）

本日は、議第12号 令和2年度から令和5年度まで京都市立小学校及び義務教育学校（前期課程）において使用する教科書の採択についてお諮りするので、御審議いただきたい。

議案と共に議案説明資料、別紙資料として「各教科書の主な特徴等について」、「基本方針」、「選定の観点」をお配りしている。また、参考資料として「教科書選定委員会答申」、「教科書展示会の実施状況」、「要望書の写し」に加え、これまでの教育委員会勉強会で配布してきた教科書見本本のコピーも添付している。

まず、教科書採択事務の経過について、簡潔に御説明する。議案説明資料を御覧いただきたい。5月9日の教育委員会会議において、採択に関わる基本方針及び選定の観点を御議決いただいた。5月20日には、各教科の指導主事、学校現場の教員、学識経験者、保護者代表の計110名からなる「京都市地区小学校教科書選定委員会」を設置・開催し、教育長から教科書選定に関わる諮問を行い、調査研究がスタートした。6月18日の第2回教科書選定委員会では、教科ごとの調査研究部会から、調査の進捗状況が報告され、議論が行われた。7月8日の第3回教科書選定委員会では、答申案について、議論され、答申内容が決定された。その後、7月18日に選定委員長、副委員長から教育長に答申を提出いただいた。教育委員会勉強会等でも、既に御説明させていただいたが、教科書選定委員会に参画いただいた学識経験者や保護者代表の皆さまには、教科書展示会にも足をお運びいただき、会議では多岐にわたる視点から議論を深める意見を発信していただいた。また、各教科の調査研究部会については、熱心な調査研究を積み上げていただいた。

教科書展示会については、本市では「開かれた教科書採択」を推進するため、法令で定められている教科書センター2会場に加え、地域図書館を中心に計11会場で展示会を開催したほか、展示期間についても、5月31日から7月3日までと、法定の約2倍の期間で実施した。結果、閲覧名簿に記載された方だけで203名の方に来場いただき、66件の意見を頂戴した。いただいた意見の内容としては、教科別では外国語科に関する意見が21件と最も多く、次いで道徳科が16件、社会科が15件であった。また、授業時数の増加や教員の忙しさに関する意見も7件ずつ、QRコードに関する意見も5件頂戴した。また、事務局に対して直接提出・郵送された要望書が2件であった。これらの意見・要望は、教科書選定委員会にも随時お示しをしている。以上が経過説明である。

続いて、議案について御説明する。議案別紙に採択候補教科書をお示ししている。こ

ここからは別紙資料「各教科書の主な特徴等について」を基に本議案に至った視点について各教科の担当指導主事等から御説明する。

(事務局説明 栗本 首席指導主事)

国語科である。4社について概要を御説明する。

はじめに東京書籍である。総じて標準的な工夫が見られる。具体的には、学習過程や学習で重視する視点が示されており、学習の流れを意識しやすい点、また、複数領域を指導できる教材を配列したり、学習内容と日常生活を繋げるための視点を示したりすることで、習得した知識・技能を活用しやすい点などが挙げられる。読書に関しては、学年ごとに推奨する図書や学習内容に関連する図書が紹介されるなど、学習と読書の関連が図られている。

学校図書である。全体を通して単元の学習過程が統一され、学習の流れを見通しやすくなっている。一方、複数領域に関わる単元で、領域ごとの内容が連動していないものもあり、習得した知識・技能を活用しにくいことが懸念される。また、学習した内容を学校生活や日常生活で活用するための工夫が弱く、単元末の学習の振り返りもポイントの確認のみとなっており、発展的な学習を促しにくい面が見られる。

教育出版である。学習の過程や付けたい力が示されることで、学習の見通しをもちやすくなっている。また、複数領域を接続させた単元を設けたり、「読むこと」の単元で複数の教材を配置したりするなど、習得した知識・技能を活用した授業展開を促している。一方、単元末の振り返りが「できたかどうか」のみが問いかけられ、発展的な学習に繋げにくい面が見られる。また、推奨する本が紹介されているが、読書単元や学校図書館活用の学習と連動させるなどの工夫は弱い。

最後に光村図書出版である。領域に応じて4段階の学習過程が示され、学習の見通しをもちやすくなっている。また、学習内容に関連する既習事項が随所に示されており、学んだことを生かして学習を深めやすい点や、言語活動を段階的・発展的に指導できる教材が豊富である点、学習の振り返りを通して、学んだことを生活で生かすことを促している点などが優れている。さらに、読書に関しては、学年2回の読書単元や、随所で関連図書紹介など、学習と読書との関連が図れるようよく工夫されている。

以上を総合的に勘案し、学習の見通しをもちながら、豊富な言語活動を通して、育成すべき資質・能力を意識した学習が展開しやすいこと、また、充実した振り返りを通して、学んだことを今後の学習に発展させやすく、主体的な読書の促進に繋げやすいことなどの点で優れている「光村図書出版」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えられる。国語科は以上である。

続いて書写である。5社について概要を御説明する。

はじめに東京書籍である。巻頭は1年間の学習目標と学習の関連性やめあてが見通せるようよく工夫されている。文字を正しく整えて書くために必要な知識・技能を示す「書写のかぎ」を核にした課題発見、話し合い活動により、主体的・対話的な学習が展開しやすい。加えて、本や歌などから、書きたい言葉を決めて、発展的な学習に取り組める

工夫がなされている。

学校図書である。各教材に文字を書く上でのヒントなどが示されており、めあてを意識した学習が展開しやすい。文字文化に対する視野を広げる工夫や、習得した知識・技能を日常生活等に生かす言語活動の設定など、思考力・判断力・表現力等の育成に繋がる工夫が見られる。一方、各教科等に繋がる内容が他社と比較して少なく、また、1年間の振り返りでは、学習のめあてや活動があらかじめ明示されており、発展的な学習には繋げにくい面がある。

教育出版である。各教材には学習のめあてと共に課題発見や文字を書く上での重点を確認する活動が設定されているなど、よく工夫されている。課題発見、話し合い活動の手順が丁寧に提示されているため主体的・対話的な学習が展開しやすい。文字への興味・関心を高める工夫がなされるとともに、習得した知識・技能を日常生活に生かす言語活動が豊富に設定されていたり、他教科への活用についても分かりやすく示されており、総合的によく工夫されている。

光村図書出版である。1年間の見通しや各教材に文字を書く上での大切なポイントが示されていることにより、めあてをもち学習に取り組みやすい。課題発見、話し合い活動が提示されていることにより、主体的・対話的な学習が、また、習得したことを日常生活に生かす言語活動が設定されていることにより、思考力・判断力・表現力等の育成に繋がる指導が展開しやすい。

最後に日本文教出版である。学年の目標や文字を書く上でのポイントが明示されるほか、課題発見を促す手立てが示されるなど、めあてをもった学習に取り組みやすい。また、「試し書きをする」から「ふり返る」までの6段階の学習で構成されており、主体的・対話的な学習が展開しやすい。一方、文字文化への理解を深める教材や各教科等に繋がる内容が他社と比較して少ないという点が見られる。

以上を総合的に勘案し、めあてや文字を書く上での重点を確認した上で、学習に取り組むことができること、課題発見や話し合い活動を通して主体的・対話的な学習が展開しやすいこと、また、文字への興味・関心を高め、他教科への活用が明示されていることなどで優れている「教育出版」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えられる。書写は以上である。

(事務局説明 鈴木 首席指導主事)

社会科である。3社について概要を御説明する。

はじめに東京書籍である。主体的・対話的に問いを設定することを重視しており、思考の視点を示しながら、豊富な図や写真を基に話し合う活動を促している。また、各学習段階で豊富な言語活動が設定されるとともに、社会的な見方・考え方を学習内容に応じて適切に示しており、児童の思考が深まるよう工夫されている点が優れている。さらには、伝統文化に関する体験的な学習を通して、伝統文化が生活文化として継承されていることを実感できる点や、現代的課題等を通して地域や社会形成に参画することの重要性に気付けるよう工夫されている点も優れている。

教育出版である。工夫としては、イラストや写真から学習イメージを想起させ、身近な社会的事象との関わりを意識しながら、問題を解決する学習展開となっている点が挙げられる。一方、単元内に学習段階が明記されていないこと、また、社会的な見方・考え方が分かりやすい形で示されていないことから、学習の見通しがもちにくく、見方・考え方を働かせた学習が展開しづらい面がある。現代的な諸課題等について取り扱われているが、身近な地域の課題に目を向けさせるための工夫が十分とは言えない。

最後に日本文教出版である。単元冒頭に話し合う活動が設けられるなど、問いの設定が重視されており、その後も学習の計画に沿って、「わたしたちの問題」「学習問題」「さらに考えたい問題」と問いが深まっていく構造が特徴である。各単元では、社会的な見方・考え方が具体的に示され、課題を追究する活動を展開するための手立てとなっている。現代的課題については、時代背景や現在の取組について学習した後、日常生活においてできることを考え、社会参画意識を高めるよう工夫されている。

以上を総合的に勘案し、充実した資料と思考の視点を示すことで、主体的・対話的な学習を促すとともに、学習を見通しながら豊富な言語活動を設定することで、思考力・判断力・表現力の育成を図りやすいこと、また、社会的な見方・考え方を的確に示すことで、思考を深めながら、学んだことを実生活で生かし、社会参画の重要性を理解しやすいという点で優れている「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えられる。社会科は以上である。

続いて地図である。2社について概要を御説明する。

東京書籍である。随所で地図を使った活動が提示され、探究意欲を喚起する手立てとなっている。また、自然災害に関する地図資料では、様々な情報だけでなく、避難場所の確認を促すなど、実生活に即した活動を促している。一方、全体的に色合いが暗いうえ、地図上の情報量が多く、文字と地図記号等とが重なったり、地名等がゆがんで表記されたりするなど、使用しづらい面がある。

帝国書院である。地図の解説や使い方に十分なページが割かれ、理解しやすい解説が丁寧に示されている。また、随所に地図情報を活用した活動が3段階のレベルで提示され、地図と日本の自然、災害、産業などを関連付けた豊富な資料も提示されており、自主的、探究的な学習に繋げやすく、優れている。全体的に地図が淡く、文字が濃い色合いとなっており、地図記号等も精選されているため、文字と地図記号等の重なりや文字の並びの揺れも低減されており、使用しやすくなっている。

以上を総合的に勘案し、地図の基礎的・基本的な事項が丁寧に説明されるとともに、資料が豊富に示され、情報量や文字配列の工夫などから見やすさ、使いやすさという点でも優れている「帝国書院」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えられる。地図は以上である。

(事務局説明 山野 主任指導主事)

算数科である。6社について概要を御説明する。

はじめに東京書籍である。問題解決の過程で働かせる数学的な見方・考え方が可視化できる構成であり、基礎的・基本的な概念の育成が図りやすい。また、既習事項を統合し、数学的な思考を深める活動等により思考力・判断力・表現力等の育成が図りやすい。加えて、日常生活での活用を意図した課題により、探究的・発展的な学びに繋げやすい

という点で優れている。

大日本図書である。日常生活から課題を見出し、数学的な見方・考え方を働かせる題材が提示されていることで、主体的に取り組みやすく、また、補充問題等が充実していることで学習を振り返りやすい。言語活動を伴う学習が広げられるよう工夫されている一方で、単元によっては情報量が多過ぎたり、抽象化までの過程が丁寧でないものもあり、概念の意味理解が深まりにくい。

学校図書である。既習事項の活用を重視し、基礎的・基本的な知識・技能が発達段階に応じて習得できるよう工夫されている。演算決定の有効な手立てとなる図の学習が系統的であり、言語活動が展開しやすい。数学的な見方・考え方の獲得に向けて、視点がキャラクターを用いて示されているが、高学年に誘導的すぎる面があり、思考が深まりづらいところがある。

教育出版である。考えるヒントと共に類推や疑問の形で数学的な考え方が示されていることで、基礎的・基本的な知識・技能の定着と共に思考力・判断力・表現力等の育成が図りやすい。スパイラルな学習により概念や見方・考え方を深める工夫がされているが、情報量や内容が発達段階に即していない単元もあり、概念の理解が深まりにくい面が見られる。

新興出版社啓林館である。スモールステップで教材や展開の仕方が工夫されており、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図りやすく、また、具体物を操作する活動から、図で表すことを促したり、様々な図を活用した説明の仕方が示されたりしているため、数学的な表現力が高めやすくなっている。習得した知識・技能を基に、活用への意欲を高める活動が設定されているため発展的な学びにも繋げやすく、総合的に優れた教科書であるといえる。

最後に日本文教出版である。数、計算、図形等の概念を抽象化、一般化する過程が丁寧に取り上げられているなど、数学的な表現力の育成という点で工夫されている。また、結果や方法の見通しを考え、話し合うための着眼点を示した上で、問題解決に適した考え方を複数から選ぶ活動が設定されており、問題解決的な学習に取り組みやすい。

以上を総合的に勘案し、発達段階や系統性の配慮により、基礎的・基本的な知識・技能の定着とともに数学的な表現力を高めやすいこと、説明する活動や知識・技能の活用への意欲を高める活動により探究的・発展的な学びを展開しやすいことなどで優れている「新興出版社啓林館」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考える。算数科は以上である。

(事務局説明 由良 副主任指導主事)

理科である。6社について概要を御説明する。

はじめに東京書籍である。単元初めの既習事項の確認、学習のまとめ、観察・実験の記録のまとめ方などが示されているなど、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図りやすい。既習内容を踏まえた説明を促す設問が設定されるなど、言語活動が展開しやすいよう工夫されている。加えて、既習内容と実生活を繋げて考えるコラムなどにより発展

的な学習が展開しやすい。

大日本図書である。系統性・発展性を意識した既習事項や、学習のまとめ、成長段階を踏まえた観察・実験の記録のまとめ方の例示などにより基礎的・基本的な知識・技能の定着が図りやすいよう、よく工夫されている。単元末には、知識を身近な現象に適用させて説明する問題が充実しており、発展的な学習が展開しやすい。学習問題に対する予想や考察の場面において、話し合い活動が豊富に設定されており、言語活動が展開しやすいなど、総合的に優れた教科書であるといえる。

学校図書である。観察・実験の記録の取り方の例示が多様であり、基本的な技能の習得を図りやすい。例えば、考察、発表場面などでの活動事例が豊富であり、言語活動が展開しやすく、よく工夫されている。加えて、身の回りの自然事象への関心が深まるようなコラムなどにより、発展的な学習が展開しやすい。

教育出版である。基礎・基本の知識の確認と単元末の振り返りの設定により、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図りやすく、問題発見の場面では対話を促すことで言語活動が展開しやすい。自然事象や科学技術への興味・関心に繋がる資料が提示されていることで、発展的な学習が展開しやすい。

信州教育出版社である。観察・実験の手順や操作のポイント等が、説明文や図等によって示されているなど、基礎的・基本的な知識・技能の習得を図りやすいが、結果の予想や考察の場面が明確に設定されておらず、また、単元での学びを活用したり、発展させて考えたりする問題が設定されていないため、問題解決的な学習や発展的な学習に繋がりにくいという面が見られる。

最後に新興出版社啓林館である。理科の見方・考え方を働かせながら話し合う場面が示されるなど言語活動が展開しやすい工夫がなされている。単元末は段階的に理解が深まる構成がなされており、学習内容の定着を図る上で、よく工夫されている。自然との共存を考える単元が設定されているなど発展的な学習が展開しやすい。

以上を総合的に勘案し、学習のまとめ、発達段階を踏まえた観察・実験の記録のまとめ方等の例示、身に付けた知識・技能を活用する問題が設定されていることにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図りやすく、発展的な学習が展開しやすいこと、また、話し合い活動が豊富に設定されており、言語活動が展開しやすいことなどで優れている「大日本図書」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えられる。理科は以上である。

(事務局説明 鍵村 指導主事)

生活科である。8社について概要を御説明する。

はじめに東京書籍である。身近で取り組みやすい教材が取り上げられ、写真や問いかけを通して学習意欲を喚起している。また、活動においては、児童の試行錯誤を重視しており、体験と表現を繰り返しながら、次の活動に取り組む流れとなっている。一方、体験したことを表現する場面では、多様な表現方法を示すための工夫に不十分な面が見られる。

大日本図書である。児童の生活圏にあるものを学習対象とし、学習内容を想起させる写真を示すことで、児童の関心を引き付けている。また、話し合い活動の様子を示したり、擬音語や擬態語を紹介したりするなど、表現豊かに交流活動が進むよう工夫されている。一方、単元を通した学習の流れがイメージしにくく、学習の見通しがもちにくい面が見られる。

学校図書である。単元が4段階で構成され、各ページでも学習段階が明示されており、学習の見通しをもちやすくなっている。また、具体的な活動例や学習段階に応じた複数の教材が示されており、児童が考え選択しながら行動できるよう工夫されている。一方、交流活動を促しているものの、豊かな表現方法等を提示する点では不十分な面が見られる。

教育出版である。学習を通して引き出したい力をマークで明示している点が大きな特徴である。単元内では、自分自身で活動方法や調べることを決定・選択する場面を設け、主体的な課題解決を促している。また、問いかけや振り返りを通して、探究意欲を深めるとともに、巻末では学習で重視される知識・技能のほか、関連図書を示すなど、学習したことを日常生活で生かしやすいようになっている。

信州教育出版社である。郷土食や伝統行事、自然の中での遊びなど地域に密着した教材や資料が豊富に示されている。一方、単元冒頭の写真や挿絵は、活動意欲を高めるような工夫が見られず、また、児童が対話する場面で例示されているカードなどが同じ様式で示されるなど、子どもの試行錯誤や繰り返し取り組むことを促しにくい面が見られる。

光村図書出版である。単元冒頭では具体的な学習の流れが、各ページではどの段階の学習であるかが明示されており、学習の見通しをもちやすくなっている。また、児童の学習意欲を喚起したり、学んだことを日常生活に生かしたりできるよう、単元名が工夫されたり、写真、イラストが効果的に配置されたりしており、優れている。さらに、公共ルールや生活リズムなどを示したイラストにより、生活上必要な習慣や技能が身に付きやすくなっている。単元末では、シールを用いて学習の成就感を感じながら振り返る活動が提示されるなど、優れた工夫が見られる。

新興出版社啓林館である。各ページにはその時間の学習段階と共に、次の活動に繋がるリードが示されており、活動の連続性や広がり意識しやすくなっている。また、児童の試行錯誤を促す活動が豊富に掲載されるとともに、ブース形式で調べたことを伝える活動など、多様な交流形態が示されている。一方、学習内容に関する資料は活動の内容や方法が限定的であり、十分な工夫が見られない。

最後に日本文教出版である。単元冒頭の学習を見通す活動では、学習と日常生活を関連付けやすくなっている。また、単元内では学習を振り返り、次の学びに繋げる活動が設定されるとともに、交流する場面では思考ツールや、身振り・手振りなど用いた様々な形態が示されている。一方、学習内容については、活動の流れや視点が絞られ、児童の多様な思いを引き出しにくい面が見られる。

以上を総合的に勘案し、学習意欲を喚起するよう紙面構成が工夫されるとともに、単元を通して学習の見通しをもちながら、児童の経験や日常生活との関連を意識した学習活動が展開しやすい点、また、生活上必要な習慣や技能を身に付けながら、学んだことを実生活に生かしやすいという点で優れている「光村図書出版」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考え。生活科は以上である。

(事務局説明 日比野 主任指導主事)

音楽科である。2社について概要を御説明する。

教育出版である。題材の主要部分とは別に歌唱・器楽教材や鑑賞教材の楽曲が充実しており、児童の実態に応じて弾力的に題材を構成しやすく、よく工夫されている。また、体を動かしながら楽しめる楽曲が全学年で取り上げられていたり、和太鼓の学習にあたって、伝統音楽への関心や和楽器に関する理解を深めたりする工夫がなされている。一方で、学びの過程が具体的に示されず学習の見通しがもちづらい題材や、児童の気付きを促しづらいワークシート様式など、思考力・判断力・表現力等の育成が図りづらくなっている点が見られる。

教育芸術社である。全ての題材で学習目標や活動文が示され、学習の見通しをもちやすく、6年間を通じた系統的な領域・分野ごとの教材配置など、題材構成の系統性・発展性が優れている。また、音楽を形づくっている要素を軸に、表現領域と鑑賞領域での学びを往還的に活用できるよう題材が配列されるとともに、伝統楽器を用いながら、各学年の多くの題材で表現領域と鑑賞領域との適切な関連も図られるなど、日本の伝統音楽の良さを一層味わえる工夫が見られる。

以上を総合的に勘案し、題材構成の系統性・発展性に優れ、知識・技能の確実な定着が図りやすいこと、表現領域と鑑賞領域での学びの往還的な活用、伝統楽器を含めた伝統音楽のよさを感じる工夫が充実していることなどから、「教育芸術社」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考え。音楽科は以上である。

(事務局説明 久米 副主任指導主事)

図画工作科である。2社について概要を御説明する。

開隆堂出版である。豊富なイラストや写真によって、用具の使い方を丁寧に解説しており、安全に対する配慮が十分になされている点が優れている。また、作品を友達と相互に鑑賞しながら制作する児童の様子を示すなど、表現と鑑賞との関連が図られている。一方、作品に添えられた児童の思いや工夫が短文で情報量が少ないため、対話的な学びを促しにくい点や、高学年での造形遊びにおいては、学校実態によっては用意することが難しい材料や活動場所等が掲載されており使いづらいという点では配慮が不十分といえる。

日本文教出版である。主な特徴として、低学年では表現したいことを楽しく思い描く題材を、高学年では創造的な発想や構想に繋がる題材を配置するなど、発達段階を踏まえながら、児童の能動的な活動が促されるよう工夫がなされている。また、友達と対話しながら互いの活動や作品を見合う児童の様子を掲載するなど、造形活動と鑑賞活動を

往還させながら表現を広げ深められるよう工夫されており、優れている。さらに、多様な言語活動や材料、活動場所を学校実態に応じて柔軟に選択できるよう配慮がなされている。

以上を総合的に勘案し、言語活動や材料、活動場所を学校実態に応じて柔軟に選択できること、表現と鑑賞を関連付けられるよう工夫されていること、また、児童の能動的な活動を促す題材が発達段階に応じて設定されていることなどから、「日本文教出版」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えられる。図画工作科は以上である。

(事務局説明 島 指導主事)

家庭科である。2社について概要を御説明する。

東京書籍である。特徴として、全ての題材において、実習で習得した知識・技能を家庭で実践し、自身の生活の改善等に繋げるという一連の構成が各題材で統一されていることが挙げられ、新学習指導要領で重視される「家族と家庭生活」に関連付けた学習活動の展開に優れている。また、各題材には、学習内容に関するリード文や3段階の学習活動が用意されており、見通しをもった学習が進めやすい。さらに、振り返り活動や実習と組み合わせた活動など、知識・技能の確実な定着に向けた工夫も顕著であり、生活の営みにかかる見方・考え方については、折込資料での解説に加え、各題材でも明示されており、見方・考え方を働かせた学習が進めやすいことも高く評価できる。

開隆堂出版である。東京書籍と同様に、各題材が実践的な活動に結び付けられる構成となっていることや、家庭生活での自分の役割や実践の手順を考える題材が適宜設けられているなどの工夫が見られる。また、知識・技能の確実な定着を図るための工夫や、生活の営みにかかる見方・考え方を意識付ける工夫が各題材見られるが、東京書籍に比べると総じて工夫が弱い印象である。

以上を総合的に勘案し、新学習指導要領で重視される「家族と家庭生活」に関連付けた学習活動の展開に優れていること、学習の見通しや振り返り活動、自己評価できる一覧表等により、知識・技能の確実な定着が図られていること、また、折込資料や各題材での明示により、生活の営みにかかる見方・考え方を働かせた学習活動を展開しやすいことなどから、「東京書籍」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考えられる。家庭科は以上である。

(事務局説明 別井 副主任指導主事)

体育科保健である。5社について概要を御説明する。

はじめに東京書籍である。各時間の学習課題や進め方が明確であることや、学習したことを活用する振り返りが提示されていることにより、学習内容の定着が図りやすい。単元導入時には生活を振り返りながら課題に気付く工夫がなされているなど、学びの見通しをもたせ、保健の見方・考え方を働かせた問題解決的な学習が展開しやすい点で優れている。

大日本図書である。学習が「導入、活動、まとめ」で構成されているが、導入時の問

いには、ねらいに到達しにくいものがあるという点や、習得した知識を活用する活動において、発問が思考を促しにくいという点で工夫が不十分な面が見られる。また、他社の教科書では見られない専門的な用語が紹介されているものの、情報の紹介にとどまり、発展的な学習へは繋がりにくい。

文教社である。調べる、考える、話し合うという一連の学習活動で構成されているが、本文等を補完する資料の提示がやや少なく、児童の理解を深めたり、関心を高めたりする手立てが十分でないことから、発展的な学習へは繋がりにくい。

光文書院である。各時間の学習課題が明確で、目的意識をもって学習を進められるよう工夫されている。また、単元導入時には児童が経験を振り返りながら、学習課題に気付く活動が設定されており、問題解決的な学習が展開しやすい。記述式の振り返り活動や継続した学びに向けた課題等が設定されており、具体的な実践に繋げやすく、よく工夫されている。

最後に学研教育みらいである。習得した知識・技能の活用や、意図や理由を明確にしたまとめなど、学習内容を深める様々な活動が提示されており、基礎・基本の定着や知識の活用という点でよく工夫されている。単元導入時に例示されている児童の考えや疑問が学習課題の発見や、課題解決に向けて保健の見方・考え方を働かせるヒントとなり、問題解決的な学習が展開しやすい。加えて、学習内容に関連した資料を基に調べ考える活動が例示されており、発展的な学習が展開しやすいなど、総合的に優れた教科書であるといえる。

以上を総合的に勘案し、単元導入時の学習内容に関連する疑問等の例示とともに習得した知識・技能の活用や、意図や理由を明確にしたまとめ等が設定されていることにより、問題解決的な学習を通して学習が深めやすいこと、また、健康に対する意識を高め、資料を基にした発展的な学習を展開しやすいことなどで優れている「学研教育みらい」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考え。体育科保健は以上である。

(事務局説明 松藤 指導主事)

外国語科である。7社について概要を御説明する。

はじめに東京書籍である。その場でやり取りをする活動の豊富な設定とともに、児童が情報を整理して発表することができるよう、発表文の順序の入れ替えの提示など、よく工夫されているが、単元末の活動が学年別に「やり取り」と「発表」とに区別されているため、2学年間でそれぞれの力をバランスよく育成する指導がしづらい点が見られる。

開隆堂出版である。活字体の読み方・書き方の学習後、文字と音の認識を深めるための学習が系統的に構成され、よく工夫されているが、書く内容がすでに示されている発表原稿が多いため、思考しながら情報を整理する力を育みづらいうえ、語順を意識させる活動が巻末「ふろく」に設定されているため、単元学習での活用が図りづらくなっている。

学校図書である。単元導入において学習到達目標が明示されていないため、児童は「英語で何ができるようになるのか」が分かりづらく、学習の見通しが立てづらいうえ、

紙面上に相手や他者の理解に配慮させる表記が特になく、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせづらいなど、総じて他社と比較し工夫が弱い印象である。

三省堂である。複数の単元での既習事項を活用して発表を行う際に、発表対象をグループから学級全体と習熟を深める２段階構成とするなど、よく工夫されている点があるが、学習展開の過程が紙面からは読み取りづらいうえ、コミュニケーションを図る必然性を児童が感じづらい設定が見られる。

教育出版である。児童が情報を整理しながら発表することができるよう、複数のモデル文が示されるなど、思考を働かせる工夫が見られるが、単元導入においては、学習計画やめあてが示されておらず、見通しをもった学習に繋げにくいとともに、複数単元での既習事項を活用する言語活動の設定がないなど、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図りづらくなっている。

光村図書出版である。２学年間で「読むこと」・「書くこと」に関する継続的・系統的な学習が展開できるよう、工夫されている点が顕著である。また、単元末に向けた段階的な学習到達目標が単元当初に設定され、見通しが明確で主体的な学習に繋げやすいことや、言語活動の充実に向け、「話す」技能における、やり取り、発表のバランスや順序がよく工夫されているなど、総合的に優れた教科書であるという。

最後に新興出版社啓林館である。単元末での振り返りにおいて、「学習した英語をどんな場面で使いたいか」を自由記述させるなど、英語を学ぼうとする意欲を高める工夫が特徴的だが、語順に関する学習が系統的に設定されていないなど、語順を意識しながら書く力を育成する上での工夫が弱くなっている。

以上を総合的に勘案し、段階的な学習到達目標の設定による学習の見通しの明確さ、言語活動の継続的・系統的かつ多様な展開が最も充実していることなどから、「光村図書出版」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考え。外国語科は以上である。

(事務局説明 居林 主任指導主事)

特別の教科 道徳である。８社について概要を御説明する。

はじめに東京書籍である。各教材に、タイトル、２種の発問等が示されており、学習の見通しがもちやすく、また、自己評価や学期ごとに振り返るページが用意されるなどよく工夫されている。加えて、道徳的問題について「考えるステップ」が適宜設定されていること、いじめ問題について関連教材でユニットを構成するなど、総じてよく工夫されている。

学校図書である。教材を掲載した「きづき」と学習活動を掲載した「まなび」との２冊構成となっているが、「きづき」と「まなび」の構成が異なることから、その関連性が分かりにくく、また、教材に学習のめあてが示されておらず、学習の見通しがもちにくいという点が見られる。

教育出版である。各教材に、タイトル、主題等が示されており、学習の見通しがもちやすく、また、役割演技等の多様な学習方法が提案されるなどよく工夫されている。また、「いじめをなくす」教材が豊富で、多面的・多角的に考えるための工夫が多彩な点で優れている。

光村図書出版である。年間を３つに区分した構成が特徴的である。また、各教材には、

タイトル、導入の問いかけ、学習を記録する活動が示されているなど、学習の見通しがもちやすい。問題解決的な学習等の教材も豊富で、多様な学習活動が提案されるなど、様々な視点からよく工夫されている。

日本文教出版である。各教材に、主題、導入の発問、あらすじ、主な登場人物、複数の発問が示されており、導入の発問例やあらすじまで示されているのは、日本文教出版だけであり、特に学習の見通しがもちやすい。また、別冊のノートには、自由記述欄、自己評価欄等が設けられるなど、多様な学習活動に繋げやすい点も顕著である。問題解決的な学習等は、対話や話し合い等の実践的な活動が段階的に提案されており、また、コラムはテーマが幅広く、多様な見方・考え方に繋げるなど、総合的に優れた教科書であると言える。

光文書院である。各教材で、見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されているが、発問は価値理解に寄せたものが多いため、多様な学習に繋がりにくく、また、目的が異なる2つ発問の表記がないため、児童がどちらの学習を行なっているか、分かりづらいところがある。

学研教育みらいである。児童の問題意識を大切にすることを意図して、各教材に主題が示されていないが、そのことで教材の内容が捉えにくくなっている。また、振り返りページは工夫が弱い、または、ページそのものが用意されていない。ただし、多様な学習活動を提案するページが豊富な点、「いのちの教育」を集中的・多面的に学習できるよう工夫されている点など、プラス面とマイナス面が共に顕著に見られる教科書である。

最後に廣済堂あかつきである。教科書本冊に加え、別冊ノートが付いているが、本冊と別冊の関連性が分かりにくく、本冊の目次には教材名しか示されないなど、工夫が弱い面が複数見られる。その他は、総じて平均的な内容で特に顕著なものは見られない。

以上を総合的に勘案し、各教材の学習の見通しがもちやすく、ねらいの設定やねらいに迫るための発問の手立てに優れていること、本冊と別冊ノートとを関連させた振り返りやまとめ、自己評価に加え、多様な学習活動に繋げやすいこと、主体的・対話的な学習はもとより、問題解決的な学習や体験的な学習等、多面的・多角的に考えを深めるための指導方法等の手立てにも優れていることなどから、「日本文教出版」が教科書採択に関わる基本方針等に最も即した教科書であると考え。道徳科は以上である。

(事務局説明 関 学校指導課担当課長)

本日の採択結果を含め、採択事務の経過、教科書選定委員会の概要や答申等は整理して、近日中に教育委員会ホームページにて公開をさせていただきます。

(委員からの主な意見)

【在田教育長】 理科の採択候補である大日本図書の特徴として、発展的な学習が展開しやすい点が挙げられているが、具体的にはどういったところか。

【事務局】 各単元末のまとめのページで、学習を深める資料が掲載されているとともに、振り返りにおいて、単なる語句の確認にとどまらず理由を説明させ

るといった言語活動が設定されており、発展的な学習に繋げやすい構成となっている。

- 【野口委員】 理科は高校になれば、生物・化学等、複数領域に分かれた学習となるが、小学校ではどの領域でも同様の学習活動・展開となるのか。
- 【事務局】 基本的に、全ての領域において共通した構成である。
- 【星川委員】 人工知能の飛躍的な進化の一方で、音楽科や図画工作科等での学びを通じて、児童一人一人の多様な感性を培うことが重要である。図画工作科について、学年で教科書名が異なるが、児童へのメッセージ等が意図されているのか。
- 【事務局】 図画工作科は能動的な活動を重視しており、児童が楽しさなどを見出しながら学習意欲を高めることができるよう、発達段階に応じた教科書名となっている。また、各題材名においても、同様の視点で表記されており、児童が主体的に考え、意欲的に活動できるよう工夫されているものである。
- 【在田教育長】 図画工作科における、造形活動と鑑賞活動の往還は、感性を培う上でも効果的であると思うが、具体的な工夫はどういったところか。
- 【事務局】 新学習指導要領において、表現と鑑賞の両方の活動を通して図画工作科の目指す資質・能力を身に付けることが重要視されており、例えば、採択候補である日本文教出版の版画の題材では、制作途中で刷ってできた形を確かめた上で彫り足している写真が掲載されているなど、児童が表現と鑑賞を相互に関連付けながら学習を深められるよう工夫されている。
- 【笹岡委員】 各教科とも「主体的・対話的で深い学び」の視点での工夫が顕著な発行者が採択候補となっており、新学習指導要領の趣旨を踏まえると適切であると思う。一方で、道徳科の「選定の観点」に挙げられている「多様な見方や考え方への配慮」など、多様性への配慮といった視点も、これからの社会を生きる児童のことを考えると必要であると思う。他教科においても、多様性への配慮は調査研究において意識されているかと思うが、観点への明記等について、今後の教科書採択において、より重視してはどうか。
- 【事務局】 今回の教科書はいずれも教科の見方・考え方を働かせながら、物事を多面的・多角的に捉えることが留意されている。そうしたことを踏まえ、多様性への配慮については、教科特性も考慮しつつ、調査研究でも意識してきたが、今後より明確に示せるよう検討してまいる。
- 【奥野委員】 道徳教育について、ある一定の答えに導くような授業にならないよう注意しなければならないが、採用候補の日本文教出版は、児童が自分の思いを自由に記述できる欄が設けられている点でも優れていると考える。教科書展示会での市民意見において、特に、外国語科への不安や心配の

声が挙がっている。こうした意見等も踏まえた調査研究等がなされてきたと思うが、教科書を使用した授業がどういったものになるのかなど、引き続き、保護者等への丁寧な説明をお願いしたい。

【事務局】 市民からの御意見については、適宜、教科書選定委員会にも提示し、調査研究における参考資料としてきた。外国語科については、教科化に伴い、教科書を使用した授業が新たに始まることから、教員研修とともに、保護者等にも、学習内容や評価等について、丁寧な周知に努めてまいりたい。

【星川委員】 前回と今回の教科書採択を総括的に比較するとどうか。

【事務局】 外国語科は今回が初めての教科書採択であるが、他の教科は調査研究を踏まえた上で、現在使用の発行者が最も適したものとして判断した。各教科とも、新学習指導要領を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、丁寧に記載されているという印象であった。

【野口委員】 学習内容に応じた教科間連携が重要になってくると思うが、調査研究ではどうであったか。

【事務局】 これからの教育課程の編成にあたっては、単に各教科での指導内容の関連付けを図るのではなく、カリキュラム・マネジメントを通じて、自校の育成を目指す資質・能力の育成に向け、教科横断的な視点での教育課程の編成が求められているところである。そうしたことから、教科間、他校種とのつながりも含め、選定の視点にも設定して調査研究をしてきた。それぞれ工夫されているが、実際の授業で教科単独では生み出せない教育効果の高まりを目指し、各校、各授業者が創意工夫できるよう推進してまいりたい。

【在田教育長】 教科横断的な視点や教科間での指導事項の関連付けについては、今後作成する京都市スタンダード（教育課程指導計画）においても、分かりやすく明示するなどの工夫を検討してほしい。

（議決）

教育長が、議第12号 令和2年度から令和5年度まで京都市立小学校及び義務教育学校（前期課程）において使用する教科書の採択について、各委員「異議なし」を確認、議決。

エ 報告事項

報告 西陵中学校区の統合要望書の提出について

(事務局説明 本荘 学校統合推進室担当課長)

西京区・洛西地域の西陵中学校区の「竹の里小学校、福西小学校、西陵中学校」では、人口減少の急速な進行に伴い、児童生徒数が大きく減少する中、3小中学校のPTA・学校運営協議会、竹の里・福西両自治連において、学校統合を含めた子どもたちのより良い教育環境の在り方について、検討が進められてきた。

検討の結果、地元2地域において、「令和7年度を目途に、竹の里小学校と福西小学校を統合し、西陵中学校と合わせて、施設一体型の小中一貫教育校の創設を目指す」ことで合意され、7月31日に小中一貫教育校の創設を求める趣旨の要望書が教育委員会に対し提出された。

西陵中学校区の3小中学校のうち、特に竹の里小学校においては、児童数が大きく減少し、1学年1クラスの単級となり、平成28年度にPTA特別委員会が設置されたことを契機に、福西小学校・西陵中学校を含めた3校のPTAにおいて、子どもたちのより良い教育環境の在り方に関して検討が進められ、平成30年12月までに「小中一貫教育校創設の早期実現を目指して取組を推進する」PTA決議が採択された。

その後、3校PTAから、竹の里・福西両自治連、3校学校運営協議会に対して検討を要請され、各団体において真摯に検討を重ねられ、平成31年4月までに小中一貫教育校創設の方向性が確認された。

竹の里・福西各地域で創設の方向性が示されたことから、本年5月に両地域の自治連や3校学校運営協議会、PTA等合同の「西陵中学校区小中一貫教育校創設準備会」が設置され、PTA決議を尊重して小中一貫教育校の早期実現を目指して取組を進めることで最終合意に至られ、7月31日に教育委員会に対しまして統合要望書が提出されたものである。

次に、要望書の概要について説明する。

1点目は、令和7年度を目途に、竹の里小学校と福西小学校を統合し、西陵中学校と合わせた小中一貫教育校を新設すること。

2点目は、小学校1年生から中学校3年生までの9学年全ての子どもたちが共に学ぶことができ、地域のシンボルとなる最新の校舎を、現福西小学校敷地に建設するとともに、隣接する西陵中学校グラウンド等を活用し、部活動等の教育活動が展開できる環境整備に努めること。

3点目は、新校舎の建設に際しては、竹の里小学校と福西小学校を竹の里小学校敷地で一次統合すること。

4点目は、小中一貫教育校の特色を生かし、児童生徒の状況に応じた教育内容や指導体制を確立し、地域ぐるみの学校づくりに尽力すること。

5点目は、新校名など開校に向けた様々な検討課題については、地元や保護者の意向を尊重して対応すること。

6点目は、通学安全対策については、警察等や地元団体等の関係機関、保護者との連携のもと、万全を期すること。

といった内容で御要望をいただいている。なお、要望書の提出者については、竹の里・福西両地域の自治連合会会長の連名となっている。

本市では、これまでから地元からの御要望を最大限に尊重して学校統合を進めているが、今後、今回の西陵中学校区における地元の方々の御要望の趣旨を踏まえ、また、市議会の御理解・御支援を頂きながら、令和7年度の開校の実現に向け、福西小学校敷地における新校舎の整備内容や小中一貫教育校における教育内容等について、検討を進めてまいりたい。

なお、参考として、資料に「今年度の各校の児童生徒数と学級数」「児童生徒数の推移」「校区図」「洛西ニュータウンの小中学校の分校の経過」を記載しているが、本年4月時点の児童生徒数は、3小学校合計で593名である。開校予定の令和7年度では、3校合計で約600人の児童生徒数になると見込んでいる。

(委員からの主な意見)

【笹岡委員】児童生徒数が減少しているということだが、開校時の予定は約600人を見込まれており、現状で下げ止まりと考えているのか。

【事務局】しばらくは横ばいで推移していくが、西京区全体では今後、人口減少していく見込みである。

【笹岡委員】いつごろ減少に転じる見込みか。

【事務局】少なくとも、新校の開校予定である令和7年度までは横ばいと考えている。その後の推移は、現時点では分からないが、新たに小中一貫教育校が創設されることで、子育て世代の転入や洛西地域の活性化につながることを期待している。

【奥野委員】境谷小学校の児童数は何名か。境谷小学校は今回の統合に含まれないのか。

【事務局】境谷小学校の児童数は約200名である。今回の統合は西陵中学校区の2小1中で検討され要望書が提出されたものであり、境谷小学校については今回の統合に含まれていない。

【奥野委員】洛西中学校の生徒数は何名か。

【事務局】約300名である。

【奥野委員】洛西中学校区も統合に含めることは考えられないか。

【事務局】通学距離が広がることや洛西中学校区の新林小学校は約350名程度の児童数であることから、西陵中学校区2小1中の小中一貫教育校創設に向けて検討された。

【在田教育長】PTA・地域で御議論いただき要望をいただいた。その実現に向け今後取り組みを進めてまいりたい。その都度教育委員会で御報告させていただく。

オ 非公開の宣言

教育長から、報告1件について、会議を非公開とすることを宣言。

カ 報告事項

報告1件に係る会議録について、訴訟及び不服申立てに関する事項及び個人の権利利益を害するおそれがある事項に関する案件であるため、非公開。

(4) その他

○教育長から、前会会議以降の主な出来事等について報告

8月1日 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査における調査結果公表

8月1日～9月23日

番組小学校創設150周年記念「番組小学校の軌跡—京都の復興と教育・学区— その2 拡張」

8月6日 読み書き障害等に関する対談型講演会の開催について

8月7日 「京都ミュージアムマップ&災害時支援マップ」の寄贈について

○事務局から当面の日程について説明

(5) 閉会

11時40分、教育長が閉会を宣告。

署名 教育長